

年間第2主日の説教

金 大烈 神父 2010年1月17日(日)

《母への愛》

おはようございます。

今日の福音(ヨハネ2・1-11)は、2000年前、ガリラヤのカナという所で行なわれたある婚礼式に母マリア様とその息子であるイエス様が招かれた話です。マリア様は女の人なのでいろいろ周りの事が気になり気を配ります。そして婚礼式の宴の最中にお酒が足りなくなりそうになった時、マリア様はせっかくの盛り上がっている宴会が困ってしまうと心配します。マリア様は息子イエスに「このままではぶどう酒が足りなくなってしまう。」と話しますが、息子イエスは母にそっけなく“わたしとどんなかわりがありますか”と答えます。そして次に、“わたしの時はまだ来ていません。”と話します。それを聞いたマリア様は召使に「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言いました。そしてイエス様は水がめに水を汲むようにして、その水をぶどう酒に変えます。これが、イエス様が初めて見せた奇跡であるという話が今日の福音の内容です。

すこし、可笑しくないのでしょうか。なぜイエス様は、初めての奇跡をいろいろな人を感動させる奇跡ではなく、ただ、水を酒に変える位の奇跡を行なわれたのでしょうか。困っている人を援けることとか、病気にかかっている人を癒されることとか、もっと素敵なことを初奇跡として行なわれるはずだったと思いますが、ただ、婚礼式で水をブドウ酒に変えることを初奇跡として行なわれたのでしょうか。という事は、水をぶどう酒に変えても素晴らしい価値がある奇跡だとは言えません。

その訳に付いて黙想してみました。それはやはりイエス様は母マリアを愛していたからではないかと思えます。“わたしの時はまだ来ていません。”と言いながらも、母の気持ちを押し量り、そのお母さんのことに従わなくてはいけない気持ちになったでしょう。

聖書の全般に見られるイエス様が聖母マリア様に対する態度を見ますと、そんなにしなやかな息子ではなかったのが分かります。

8歳の幼い息子をエルサレムから帰る道で見失い、三日間彷徨いながらやっと見つけた時に、たかが、その息子から帰って来る返答は無情そのものでした。“どうして私を捜したのですか。私が自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。”(ルカ2・49)

おとなになって時、お母さんと親類が外で待っていると伝言を聞いたイエス様の答えも暖かいところは全然無かった一言でした。“私の母とはだれか。私の兄弟とはだれか。”(マタイ12・48)

このように聖書が伝えるイエス様と聖母マリア様の関係を見ますと、マリア様がいろいろイエス様の為に苦勞をなされたのではないかと思えます。

しかし、表と違いにイエス様は母マリアをととても愛したと思えます。普段には優しくしなかったかも知れませんが、心には母に対しての愛が常にあったのを感じることが出来ます。

それは、イエス様の十字架の上で話された最後の言葉、即ちその遺言を見ても分かります。イエス様は母の事を心配し、弟子ヨハネに「この方はあなたの母である。」と話します。それはヨハネに自分の代わりに自分のお母さんの事を願うということでしょう。もう一度話しますが、イエス様の

心の中には母に対する愛がとても大きくあったと思います。それなのでご自分の母を私達皆のお母さんとして定めたと思います。

皆様、マリア様を愛したイエス様の御心に従って、私達もお母さんであるマリア様を愛しましょう。マリア様の願いはイエス様が良く聞いて下さいます。母であるマリア様を通して願いましょう。カトリック信者なら持つべき心です。ミサの前に聖堂でロザリオの祈りを捧げています。これは美しい姿です。皆様、寝付けない時、渋滞時の車中等でもロザリオを祈って下さい。お子さんが受験の時もロザリオの祈りを捧げて下さい。マリア様は難しい事があっても心に納める方です。やっぱり子供達は父より母のほうが楽です。たまには甘えん坊になっても良いし、たまには言い辛い願いも母には出来ると思います。

今日の福音を通して、イエス様さえ従順された母の心に私達も頼りましょう。初奇跡を起こさせたそのお母さんの心を私達の便りとして受け入れましょう。

ありがとうございました。